

専攻医
の主張

専攻医1年目を振り返って

JA広島総合病院 心臓血管外科 友田 真由

研修を終え、心臓血管外科医として働き始めて、1年と数ヵ月がたちました。私が働いているJA広島総合病院の心臓血管外科では開心術、下肢血管手術、大血管手術、血管内カテーテル治療、シャント手術、静脈瘤などさまざまな手術を行っています。まだまだ技術力や知識量は乏しいですが、当院は4人(若手2人)の少人数でやりくりしているため、外科医としては嬉しいことにほぼ全部の手術に入ることができています。

学生の頃から外科医になりたいと漠然と思っていましたが、研修医のときに外科のローテーションを回り、手術のダイナミックさやおもしろさに惹かれて外科入局を決めました。心臓血管外科は学生の頃からかっこいいとは思っていましたが、体力がどれだけあってもついていけなさそうで、近寄りがたい雰囲気とか、若手の間は何もできなさそうとかのイメージが強く、とにかく絶対行くことはないだろうと思っていました。しかし、研修医をしていた病院がたまたま心外の急患が運ばれてくることが多く、緊急性の高い疾患を救っていくところを何度も見て、手術もダイナミックで、興味本位で心外のローテーションを多く回っているうちに、いつの間にか心外の疾患や手術への興味が高まって入局しました。

心外になって、手術の助手はもちろんですが、

シャントや静脈瘤などは若手で執刀させてもらえ、若手でも思っていた以上に手術の経験を積むことができました。また、当院は全国的にもトップレベルでASOの治療を行っている施設で、外来から執刀まで、上級医の絶大なサポートの下で経験させていただき、診断や治療や術後管理や経過フォロー、そして患者さんの症状が明らかに良くなってQOLが改善していくところを自分が主治医で携われることは外科医として大きな経験になりました。

研修医の方々に話を聞くと、私が昔思っていたように心臓血管外科はかなり敷居の高い印象を持たれているみたいですが、そんな研修医の方々にはぜひ1度心外をローテーションで回って体験していただきたいです。開心術の時間は長いですが、実際に術者として術野にいと、手を動かしているうちに体感では一瞬で過ぎ去っていくので、長時間オペは気にならないです。また、広島の心外の若手はなかなか少ないので、手技をするチャンスも多く、若手のうちからさまざまな経験を得られます。女性医師もここ最近では2年おきに入っており、女性だからといって入りにくさは薄れているように思えます。少しでも心外や手術に興味を持っている研修医の方がこれを読んでいたなら、ぜひ回ってきてください！

厚生労働省・介護医療院公式サイトについて

厚生労働省では、介護医療院の円滑な開設に向け、ハンドブック等を作成、公表をしているところ です。

介護医療院に関する疑問や課題についてご相談ください。

- ・介護医療院公式サイト
<https://www.mhlw.go.jp/kaigoiryouin/>
- ・介護医療院開設に向けたハンドブック (令和4年3月版公開中)
https://www.mhlw.go.jp/kaigoiryouin/assets/docs/kaigoiryouin_3.pdf
- ・「別冊資料集」(令和4年3月版公開中)
https://www.mhlw.go.jp/kaigoiryouin/assets/docs/kaigoiryouin_11.pdf